

市民生活・環境関係

件名	清水口調整池の白鳥の保護について
内容	<p>清水口調整池に毎年飛来する白鳥に餌やりなどの保護活動を行ってきた「白鳥の会」が、会員の高齢化で解散すると聞きました。これに対して「市長への手紙」でも複数の市民から市として保護活動を続けるよう要望が出されていますが、市の回答では保護する考えはないとのことで、大変残念です。</p> <p>清水口調整池のオオハクチョウは飛来の最南端として全国的にも有名で、もし飛来しなくなったり数が減ったりすれば、せっかくの白井市の「財産」をみすみす失ってしまうことになりそうです。「白鳥が飛来する里」としてアピールすれば白井市の魅力や知名度が向上し、人口の増加や地価の上昇、ひいては税収の増加につながるのではないのでしょうか。池のまわりも現状の鉄柵ではなく遊歩道を整備し、市のHPなどで魅力を発信することもするべきだと思います。</p> <p>今からでは遅いかもかもしれませんが、白鳥の保護に向け、ぜひ再考をお願いします。</p>
回答	<p>市長への手紙をいただきありがとうございます。</p> <p>また、日頃より市政への御理解、御協力を賜りありがとうございます。</p> <p>お寄せいただきました市長への手紙につきまして、回答させていただきます。</p> <p>清水口調整池に飛来するオオハクチョウについては、「白鳥の会」の解散に伴い、市に対して白鳥の保護について御意見や要望等を複数いただいているところです。</p> <p>白鳥への餌やりの影響等について、専門機関からは「自ら餌を探してとる能力を損なわない程度の餌やりは差し支えないが、給餌に頼ることなく自然のサイクルの中で自ら餌をとり生きていくことが本来の姿であり、過度の餌やりについては生態系のバランスが崩れるなどの影響がある」と伺っております。</p> <p>また、保護の観点から言えば、給餌よりも白鳥が飛来しやすい環境を整備することが重要であると助言をいただいております。</p> <p>市では、この助言を踏まえ、清水口調整池を管理する県（印旛土木事務所）に白鳥が飛来する前に草刈りを実施していただいたほか、市民にも協力をいただき、白鳥飛来前の令和3年10月9日に清水口調整池の清掃、白鳥の休憩場所の整備、危険箇所への進入防止対策など、白鳥が飛来しやすい環境の整備を行っており、今後もこのような活動を継続していきたいと考えています。</p> <p>また、市としては、自然保護の観点から、白鳥が自ら餌を探してとる能力を損なわない形で餌やり等の活動を継続する団体が設立された場合は、白鳥の会と同様の支援を行っていききたいと考えております。</p> <p>なお、遊歩道の整備につきましては、当該調整池を県（印旛土木事務所）が管理しておりますので、県へ遊歩道の整備について要望があったことを申し伝えさせていただきます。</p> <p>その他、いただきました御意見につきましては、今後の市政の参考とさせていただきます。</p> <p>貴重な御意見ありがとうございました。</p> <p>（関係課：環境課、道路課、都市計画課、秘書課）</p>

件 名	2050年二酸化炭素排出実質ゼロ表明について
内 容	<p>先日、環境省の「2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明自治体」のデータを見たときに、表明自治体の中に未だ白井市がなく、愕然としました。</p> <p>なぜ、「2050年 二酸化炭素排出実質ゼロ表明」を行わないのでしょうか？</p> <p>来年1月より、地方脱炭素ロードマップに伴う、先行地域100カ所の選定に係る公募も始まると聞いております。この100カ所に選定されると、ソフトだけでなく脱炭素社会構築に向けたハード整備の補助金も優先して得られるとの情報もあるなかで、どの様な施策を行っていくのか疑問でなりません。</p> <p>環境基本計画を拝見しましたが、H28年に見直ししておきながら、その辺の所は大変おざなりに書かれているように思いました。</p> <p>事業所に地球環境に関わる取組を求めているにも関わらず、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）も策定されていないようです。</p> <p>前からある計画を、そのまま受け継いで、通り一遍の計画策定をせずに、どうせお金をかけるなら、積極的に取組み、また中央の施策や取組に対しアンテナを高くして、取り組んで頂きたいと思えます。</p> <p>COP26も始まった中、これから国も積極的に動こうとしているので、是非宣言くらいは表明し、取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>なお、環境省に聞いたところ、宣言については、特に具体的な対策や成果を求めるものではなく、国の取組に同調し一緒になって頑張っていきたいという意味表明だけで良いそうです。</p> <p>その後、環境省や経産省の補助事業を使いながら、具体的に取り組んで行けば良いとのことなので、是非ご検討の程、宜しくお願い致します。</p>
回 答	<p>市長への手紙をいただきありがとうございます。</p> <p>また、日頃より市政への御理解、御協力を賜りありがとうございます。</p> <p>お寄せいただきました市長への手紙についてお答えします。</p> <p>脱炭素社会の実現に向けて、市の取組としましては、現在、計画期間を2030年度とする白井市第5次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定中であり、市の現状を踏まえて、将来的な脱炭素社会の実現に向け、目標値等の検討をしているところです。</p> <p>国においては、菅前首相が2020年10月26日の臨時国会の所信表明演説の中で、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。</p> <p>県においては、国の掲げる「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする。」という目標の達成に向けて、県民や事業者、市町村と協力し、「オール千葉」で一層の地球温暖化対策を推進し、2050年の脱炭素社会の実現を目指すとしています。</p> <p>市においては、市の事務事業における二酸化炭素排出量の現状を確実に捉え、まずは市の実情に合った計画を策定し、次期計画とSDGsが掲げる計画終了年である2030年に向けて、脱炭素社会の実現を見据え、各事業を展開してまいります。</p> <p>また、ゼロカーボンシティ宣言についても、検討してまいりたいと考えておりますので、御理解いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>（関係課：環境課）</p>